

特集 青少年の 学校外活動

巻頭言 ● 6 今、なぜ学校外活動か ● 坂本昇一

座談会 ● 8 これからの学校外活動

● (出席者) 明石要一 / 小久保茂昭 / 坂本忠雄 / 松下慎子 ● (司会) 金森越哉

論文 ● 18 青少年と冒険キャンプ ● 飯田 稔

● 22 青少年とボランティア活動 ● 吉永 宏

エッセイ ● 26 子供と自然 ● O.W.ニール

事例紹介 ④ ● 28 地域と連携した「てんがらもん教室」

● 自然の家がやってきた ● 国立大隅少年自然の家

事例紹介 ⑤ ● 31 障害のある児童生徒と地域の子供たちとの交流を目指して

● 静岡県教育委員会

事例紹介 ⑥ ● 34 チャレンジ・アクト

● 登校拒否児童・生徒の自然体験活動 ● 山口県教育委員会

事例紹介 ⑦ ● 37 地域を理解する青少年の学習活動

● 気仙沼市子ども市民大学 ● 気仙沼市教育委員会

解説 ● 40 学校外活動の充実のための取組 ● 生涯学習局青少年教育課

● 44 国立青年の家・少年自然の家の改善について(概要)

● より魅力ある施設に生まれ変わるために

特別記事 教職員の生涯生活設計の推進

● 46 教職員のライフプランに関する協力者会議の報告に当たって

● 生涯を人間として生きる教職員 ● 加戸守行

● 48 「教職員のライフプランの充実方策について」

(教職員の生涯生活設計に関する調査研究協力者会議報告)

● 概要について ● 大臣官房福利課

● 52 「ライフプラン・A・O・M・O・R・I」の策定 ● 青森県教育委員会福利課

● 53 生涯生活設計セミナーの開催 ● 東京工業大学

1 いま個性ある日の学校訪問記

● 栃木県立氏家高等学校(栃木県)

4 天然記念物歳時記

● 下北半島のサルおよび

サル生息北限地(青森県)

表2 名作シリーズ・春日宮曼茶羅

表3 文化財紹介・船大工榑木家関係資料

54 人々の道 ● 吉田葵太郎

55 教育・文化と地域づくり ● 石川県門前町

58 焦点 ● 文教施策

61 私の本棚から ● 中村好成

62 中教審ユース

66 霞が関トピックス

68 都道府県発 ― 教育・学術・文化ユース

● 福島県・福井県・岡山県・香川県

70 こんにちばらぼん・アンジェロ・ホルヒ

72 96 アトラクタ ― 我が国競技スポーツの最新線

● 柔道

74 科学はいま ― 理工系のみならず

● 大阪大学産業科学研究所

77 鑑賞席 ● 企画展示 館蔵品展

● 寺社縁起の歴史

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

● 財団法人修養園

80 海外教育ユース

82 文学のふもと ● ユタンの口笛

84 編集後記

石森延男

コタンの口笛

道庁の東正門の通りになると、両側にはイチヨウ並木がのびのびとそびえ、風にひるがえる葉っぱはルソーの絵を思わせ、赤れんがの建物は、かげをくつきりさせて版画をしのばせました。

「いい構図だな、ここから見たところ。こんな趣のある風景は、ちよっと日本にはめずらしいよ。それに、きょうの雲がいいぜ。」

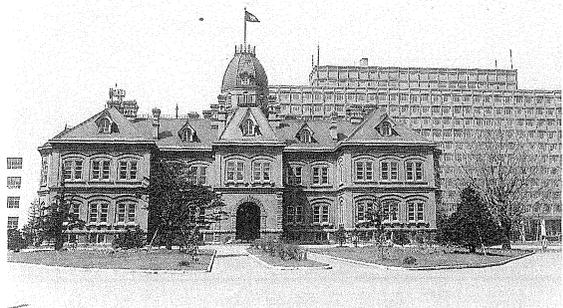
道庁の黒みがかった屋根の上に、手のひらの形をした雲がひっかかっています。白く光ったところもあり、黄色みをおびて、かげったところもあり、うす緑をすったふかさも、いくらかはらんでおり――。

へあんな雲をカットにかいたらいいわ。>

マサは、小さなカットのおもしろさを、あの雲に発見していました。



北海道庁東門前のいちよう並木



昭和40年代の赤レンガ庁舎



藻岩山の麓にある文学碑

北海道立文学館が多くの人々の期待の下に、平成七年九月二日、札幌市中央区中島公園内に移転、開館された。常設展示場には、小説を中心に北海道文学の流れを知ることができるコーナーのほか、「アイヌの口承文芸」、「幕末・紀行文学」など北海道立文学館ならではの展示、さらには、詩、短歌、俳句、川柳、児童文学のジャンルが独立コーナーとして設けられている。

現代児童文学は昭和三〇年代の長編児童文学の誕生からといわれているが、「コタンの口笛」は、一五〇〇枚を超える長編で、昭和三年に発表、石森延男六〇歳の時であり、この作品で、第一回芥川文学賞を受賞。ラジオやテレビ、映画にもなり、代表作になった。

石森延男は、明治三〇年、札幌市に生まれる。父は、北海道師範学校の教師で詩人でもあった。大正六年、札幌師範学校を卒業、札幌市内の小学校で教鞭を執るが、

二年後、東京高等師範学校に入学、そこで、童謡や童話を書き始める。札幌の町で過ごした少年時代の風景が、作品の随所に見られる。童話作家として世に認められたのは、昭和一四年に発表された「もんくうふおん」によつてである。

この間、国語学者、ローマ字論者でもある石森延男は、文部省において国語の教科書の編集に従事するとともに、昭和女子大学名誉教授、日本児童文学学会会長等を務める。昭和六二年、東京で死去。故郷、札幌藻岩山の麓には石森父子の文学碑がある。

(北海道教育委員会生涯学習部学校教育課 主査 後藤俊雄)

特集 世界の頂点を目指して 競技スポーツの振興と国際競技力の向上

巻頭言 ● 8 二一世紀に向けた国際競技力を考える

国立スポーツ科学センター等の早期実現に期待を寄せる ● 江田昌佑

座談会 ● 10 二一世紀に向けた競技スポーツ振興の展望

◆(出席者)小掛照一/小出義雄/太田 章/佐伯聰夫 ◆(司会)岡崎助一

論文 ● 20 国際競技力向上とスポーツ科学

トータルなシステムによるサポートを ● 浅見俊雄

● 24 諸外国の強化の現状 ◆ 木下孝一

● 28 競技スポーツとアンチドーピング ◆ 河野 一郎

エッセイ ● 32 私のアトランタ色 ◆ 豊田順子

事例紹介① ● 34 長野オリンピックに向けての競技力向上の取組

◆ 財団法人日本オリンピック委員会

事例紹介② ● 36 FIFAワールドカップフランス大会に向けて

◆ 財団法人日本サッカー協会

体験記 ● 38 夢は大きく…… ◆ 吉良佳子

● 39 アトランタオリンピックに出場して ◆ 中村兼三

● 40 アトランタで得た宝物 ◆ 重 由美子

● 41 オリンピックと私 ◆ 朝原宣治

● 42 夢の実現 ◆ 高山樹里

● 43 アトランタオリンピックに参加して ◆ 元 刺 幸

● 44 アトランタでの経験 ◆ 平野雅人

Q & A ● 45 競技スポーツ振興Q&A ◆ 体育局競技スポーツ課

特別記事 ● 52 多様な学習ニーズへの対応

関係機関の連携・協力を中心に

◆ 生涯学習局生涯学習振興課民間教育事業室

ある日の学校訪問記

◆ 埼玉県立 新座総合技術高等学校(埼玉県)

4 天然記念物歳時記「花ごよみ」

◆ 室戸岬亜熱帯性樹林及び

海岸植物群落(高知県)

表2 名作シリーズ ◆ 冬華

表3 文化財紹介 ◆ 臼杵磨崖仏

6 であいふれあい ◆ 周防正行

60 焦点 ― 文教施策

62 お知らせ

63 刊行物紹介

64 中教審ユース

66 ポイント生涯学習

◆ 衛星通信利用による公民館等の

学習機能高度化推進事業

68 都道府県発 ― 教育・学術文化スポードユース

◆ 北海道 ◆ 山形県 ◆ 静岡県 ◆ 愛媛県

70 どんな講座 ◆ 入な講座 ― 大学の公開講座から

◆ 東京工業大学 ◆ 豊橋技術科学大学

72 現代スポーツあれこれ

◆ 競技力の向上に対する地方の取組

73 お知らせ

74 科学は、いま理工系へいざない

◆ 東京大学宇宙線研究所

77 鑑賞席 ◆ 九〇年代の韓国美術から

等身大の物語

78 ほくちら、わたしのワイケランド

◆ 和歌山県御坊市教育委員会

80 海外教育ユース

82 文学のふもと ◆ 津軽

84 編集後記

津軽

太宰治



太宰治生家 (金木町金木)

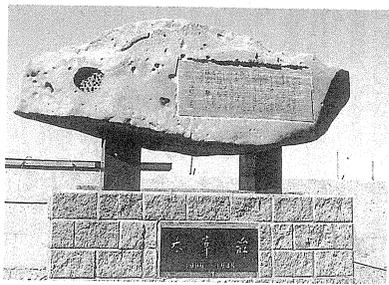
お昼すこし前に、私は小泊港に着いた。ここは、本州の西海岸の最北端の港である。この北は、山を越えてすぐ東海岸の竜飛である。西海岸の部落は、ここでおしまいになっているのだ。つまり私は、五所川原あたりを中心にして、柱時計の振子のように、旧津軽領の西海岸南端の深浦港からふらりと舞いもどってこんどは一気に同じ海岸の北端の小泊港まで来てしまったというわけなのである。ここは人口二千五百くらいのささやかな漁村であるが、中古の頃から既に他国の船舶の出入があり、殊に蝦夷通いの船が、強い東風を避ける時には必ずこの港にはいつて仮泊する事になっていたという。江戸時代には、近くの十三港と共に米や木材の積出しがさかに行われた事など、前にもしばしば書いて置いたつもりだ。いまでも、この村の築港だけは、村に不似合なくらい立派である。水田は、村はずれに、ほんの少しあるだけだが、水産物は相当豊富なようで、ソイ、アブラメ、イカ、イワシなどの魚類の他に、コンブ、ワカメの類の海藻もたくさんとれるらしい。「越野たけ、という人を知りませんか」私はバスから降りて、その辺を歩いている人をつかまえ、すぐに聞いた。

「こしの、たけ、ですか」国民服を着た、役場の人か何かではなからうかと思われるような中年の男が、首をかしげ、「この村には、越野という苗字の家がたくさんあるのよ」

「前に金木にいた事があるんです。そうして、いまは、五十くらいのはひとなんです」私は懸命である。

太宰治は明治四二年に青森県北津軽郡金木村、現在の金木町に生まれた。県立中学校、官立高校時代を青森市、弘前市で過ごしたが、東京帝国大学へ入学して後は、心中未遂事件、芸者との結婚などから津島家から勘当同様となり、郷里は近寄りがたい存在となってしまう。その後、一〇年を経て母の病気を契機に、ようやく生家を訪れることができたのである。

昭和一九年五月、太宰治は郷里を

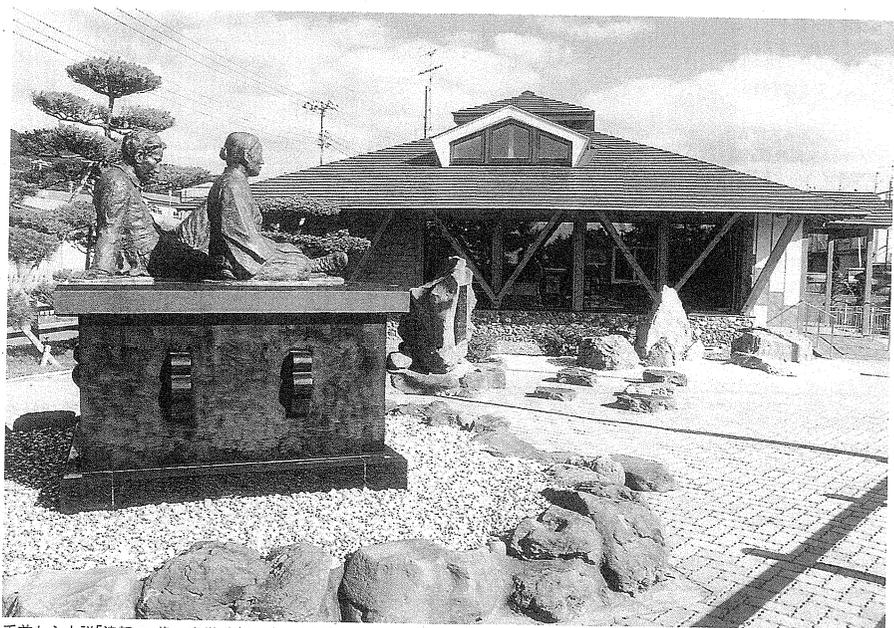


太宰治文学碑 (三厩村竜飛)

訪れ、初めて津軽半島を一周した。蟹田町の旧友N君やSさんの歓待を受けた。五年に一度を数える津軽の凶作の歴史などを知るとともにN君と三厩村の竜飛岬まで足を運ぶ。そして金木の生家に滞在する。その後、木造の父の生家や深浦、鯉ヶ沢を訪れ、五所川原へと引き返す。最後に、太宰治にとってもう一人の母とも呼ぶべき幼なき日の子守たけとの再会を求めて、小泊村へと向かう。そして国民学校の運動会の見物小屋で、たけと出会い、幸せな気持ちに浸る。——「津軽」は昭和一九年一月に小山書店から刊行された。

現在、太宰治文学碑は県内に九基あるが、そのうち「津軽」の文学碑が四基で、三厩村竜飛、小泊村、金木町、青森市に建つ。たけと再会した運動場が見える小高い丘に、小泊村が建立した文学碑のほかに小説「津軽」の像と小説「津軽」の像記念館が並ぶ。また「斜陽館」として親しまれてきた太宰治の生家は、平成八年に金木町が買い取り、平成一〇年に太宰治記念館として開館する予定である。

（青森県立図書館近代文学館室長 館田勝弘）



手前から小説「津軽」の像、文学碑(中央)、小説「津軽」の像記念館(小泊村再会公園)

特集 新しい私立大学を目指して

巻頭言 8 大学改革の中の私学
座談会 10 二一世紀、私立大学は
こう変わる

鳥居泰彦

論文 20 私学経営の求められる姿
23 新しい私立大学を目指して

レポート 26 特色ある大学に学んで
27 インタビュー入学制度と出会って

28 日本の大学に思うこと
29 次は企業へのチャレンジだ

事例紹介① 30 立命館大学におけるリゾン活動の三年間
事例紹介② 32 学生と社会の期待に応えるカリキュラム

事例紹介③ 34 地域に開かれた大学づくり
事例紹介④ 36 最先端科学に挑む場として

事例紹介⑤ 38 公開講座と学生ボランティアと大学開放
事例紹介⑥ 40 次世代の高等教育の在り方を追求

解説 42 私立大学経営の現状
45 私学助成の充実

特別記事 48 論文●研究を育てる評価
49 学術研究における評価

50 解説 ●科学研究費補助金に係る研究評価の概況／日本学術振興会未来開拓学術
56 事例紹介 ●東北大学／名古屋大学／高エネルギー加速器研究機構／東京大学
生産技術研究所

カラー

1 記念館めぐり ●ゆかりの地を訪ねて
天心記念五浦美術館 茨城県
4 天然記念物感時記
沙流川源流原始林
表2 名作シリーズ
青銅時代
表3 文化財紹介
黒漆大般若経厨子

6 私と教育、私と上げ
ダニエル・カール

62 焦点―文教施策
68 インフォメーション
69 中教審ユース
75 私の選んだ一冊
安藤駿英

76 都道府県発
群馬県前橋市、千葉県和田町、
静岡県、熊本県
78 海外教育ユース
80 文学のふもと
高原

82 鑑賞席
84 編集後記

高原

宮沢賢治

海だべがど、おら、おもたれば
やつぱり光る山だたぢやい

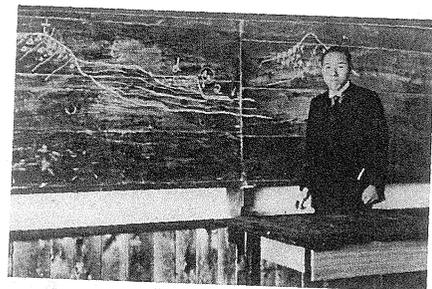
ホウ

かみけ
髪の毛

風吹けば

し
鹿踊りだぢやい

(出典 詩集『春と修羅』初版本
大正十三年自費出版)



花巻農学校時代の記念写真(大正14年)



宮沢賢治記念館(花巻市)



菜の花と岩手山(盛岡市)

宮沢賢治の作品には、故郷の方言で書いた詩や言葉があります。方言は、その魅力を生かし、言葉に詩心が宿ることで、美しくさえなり得るといって、決して恥ずべきものとか、肩身が狭いものなどではないと、ふるさとを紹介しています。この詩からは岩手の土のおいとも、高原の海ともみえる草原の広がりや風が爽やかに吹き寄せて天にもつらなる感じをうけます。鹿踊りは岩手県下に伝わる鹿の面をつけて踊る民俗芸能です。賢治の童話には『鹿踊りのはじまり』という作品もあります。

賢治は中学生のころから短歌をつくりはじめました。二五歳の時、信仰上のことなどから東京に渡りました。以前に短編作品をつくったこともあり、この出京時の約八か月の間に『注文の多い料理店』をはじめたくさん童話を書きました。のちに農学校教員となったときに仲間の影響で詩をつくるようになりました。大正一三年、賢治は詩集及び童話集を自費の形で出版しましたが、生前にはこの二冊だけでした。

晩年は病床にありましたが、これまで書いたたくさん作品原稿に手を入れ、亡くなる前日には辞世となった短歌を墨書しました。昭和八年九月二日、家族にみとられて三七歳の生涯を終えました。あとには大変な量の詩や童話の作品が残されました。

(宮沢賢治記念館長 宮澤雄造)

特集 中央教育審議会第二次答申

巻頭言 ● 個性を尊重する教育を目指して

◇小杉 隆

座談会 ● 10 二一世紀を展望した教育改革

形式的な平等の重視から個性の尊重へ

◇(出席者) 有馬朗人 / 小澤紀美子 / 清水 司 / 荒井 桂
◇(司会) 富岡賢治

論文 ● 20 中央教育審議会第二次答申のポイント ◇木村 孟

エッセイ ● 22 中教審の審議に参加して ◇河合肇雄

中教審答審を
読んで ● 24 新たな「公平観」をどう作るか ◇永井順國

● 26 中央教育審議会第二次答申の

『高等学校入学選抜の改善』を読んで ◇松原伸悟

● 28 新たな時代に対応した教育改革の推進を

◇森本昌義

● 30 本校の取組の中から思うこと ◇若切正憲

● 32 教育上の例外措置について ◇野口 廣

● 34 中教審答申を読んで
高齢社会に対応する教育を中心に ◇山崎美貴子

解説 ● 36 中央教育審議会第二次答申について

◇大臣官房政策課

● 42 諸外国の大学入学制度と例外措置

◇大臣官房調査統計企画課

1 ある日の学校訪問記
◇岐阜市立加納中学校(岐阜県)

4 天然記念物歳時記
◇若国のシロヘビ

表2 名作シリーズ ◇若き家鴨

表3 文化財紹介
◇山之口の文弥人形

カラー

6 であいふれあい ◇野村萬齋

48 焦点 | 文教施策

56 刊行物紹介
中教審ニュース

62 鑑賞席 ◇新国立劇場開場記念公演
團伊玖磨作曲「建-TAKEMICHI」

◇日本のかたな
鉄のむく・武のつら

64 家庭教育のための取組
◇家庭教育への理解を深めるために

66 都道府県発 | 教育学術文化スポーツニュース
◇新潟県 ◇長野県小諸市

◇和歌山県 ◇香川県

68 どんな講座こんな講座 | 本学の公開講座から
◇電気通信大学 ◇日本女子大学

70 現代スポーツあれこれ
◇競技力向上のための「真指導」について

72 科学は、いま
◇H-V / エイズ研究の新展開

74 行ってみようやってみよう
◇国立花山少年自然の家

76 海外教育ニュース
◇文学のふるさと ◇荒城の月

80 お知らせ

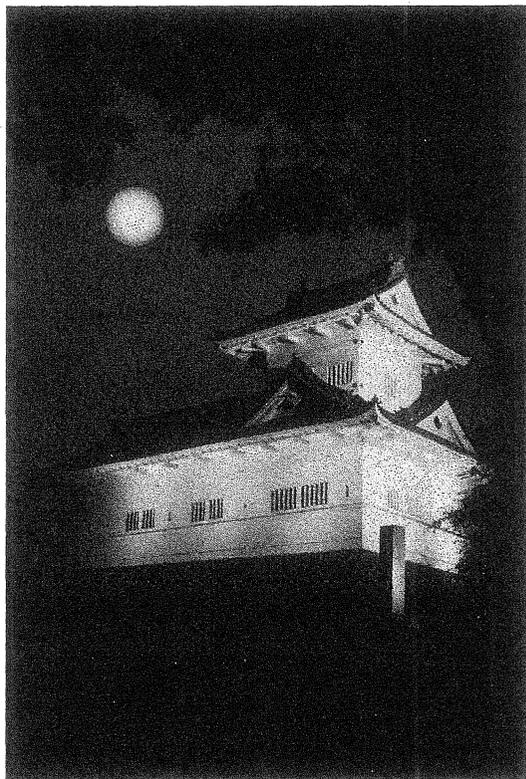
84 編集後記

荒城の月

土井晚翠

春高樓の花の宴、
めぐる盃影さして、
千代の松が枝わけ出でし
むかしの光いまいづこ。

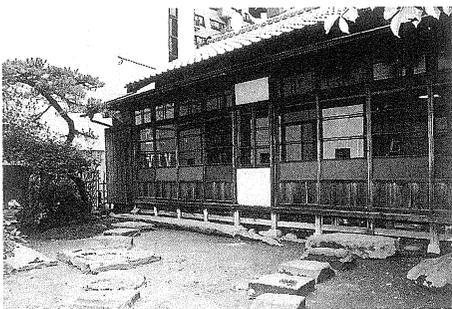
秋陣營の霜の色、
鳴き行く雁の數見せて、
植うるつるぎに照りそひし
むかしの光今いづこ。



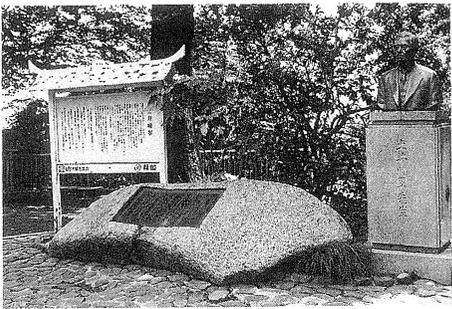
青葉城（仙台市）

いま荒城のよはの月、
變らぬ光たがためぞ、
垣に残るはただかづら、
松に歌ふはただあらし。
天上影は變らねど、
榮枯は移る世の姿、
寫さんとてか今もなほ、
あゝ荒城の夜半の月。

（出典「白蓮詩抄」長崎書店）



晩翠草堂（昭和24年建設）
庭の敷石は当時のまま



「荒城の月」歌碑（仙台青葉城址）

仙台市の中心街、仙台駅から仙台城大手門跡に通ずる青葉通りの中ほどに「晩翠草堂前」というバス停留所がある。庭前にあるのでバス待ちの人には堺越しに四季の翠が窺える。晩翠草堂は、明治の詩人、土井晚翠（一八七二―一九五二）の終の住み処で、土井吉の表札があれば郵便物が届きそうなたたずまいである。

晩翠は幼少期の漢詩、長じての英独文の素養をもって存分に詩作、翻訳し、名を世界に馳せた。校歌の作詞は日本全国一四〇余校に広がっている。

明治三年（一八九八）、東京音楽学校（現東京芸術大学）から「荒城の月」の題で依頼され、宮城県生まれの晩翠の作詩と大分県生まれの滝廉太郎（一八七九―一九〇三）の作曲によって誕生した歌曲は、日本を代表する名曲となった。二五歳の若さで傑作を残して逝った滝廉太郎と、八二歳まで仙台での教育活動後も文才を発揮した土井晚翠との出会いと別れは、「荒城の月」に流れる無常観を、はるか歴史上の榮枯盛衰のみではなく、より身近に感じさせる。

「荒城の月」の題を宛てられた時、「国破山河在 城春草木深……」や、明治維新史上の会津若松の鶴ヶ城での殉難苦節や、故郷仙台の青葉城が念頭に浮かび、文武兼備の名君伊達政宗の建設による青葉城（現荒城）跡を前にして、「垣に残るはただかづら、松に歌ふはただあらし」は実況であると、晩翠の後日譚がある。

「はるこううのはなのえん……」と、旅先にあつて城跡に立つと、そよ風に吹かれながらいつの間にか口ずさんでいる。

荒城の夜半の月は、人の世の姿の移ろいを久遠に照らし続けるであろう。

（宮城県文化振興財団専任委員 菅原雪枝）

特集 文教施策の進展 平成8年度の展望

8 総論説・文教行政全般の進展／各分野の文教施策の展開

10 文教施策の総合的推進・教育改革の推進／地域における文教施策の充実
／文教政策のための調査研究の充実／「我が国の文教施策」(教育白書)の刊行／教職員
の生涯生活設計の推進

12 生涯学習・生涯学習の振興／生涯学習の振興のための施策

14 初等中等教育・初等中等教育の概況／教育内容・方法の改善／学校週五日制の
実施／生徒指導の充実／進路指導の改善／健康教育の充実／国際化・情報化への対応／高
等学校教育の改革／幼稚園教育・職業教育・特殊教育の振興／よりよい教科書の提供／教
職員定数の充実等教育条件の整備／教員の資質能力の向上／海外子女・帰国子女教育の充
実／外国人子女教育の推進／学校等の防災体制の充実について／同和教育の振興

24 高等教育・高等教育の現状と整備の方向／高等教育改革の推進／リフレッシュ教育
の推進／理工系人材の養成／医学教育等の改善／大学院の充実と改革／国立大学の整備充
実等／公立大学等に対する助成／大学入学者選抜の改善／音楽奨励事業の充実／学生の就
職について／マルチメディアを活用した高等教育の推進

30 私立学校・私立行政の概況／私学助成の充実

32 学術研究・学術行政の概況／科学研究費補助金の拡充と出資制度の創設／若手研究
者の養成・確保／学術研究体制の整備／基礎研究の重点的推進／学術研究の社会的協力・
連携の推進

36 社会教育・時代の要請にこたえる社会教育事業の充実／社会教育の諸条件の整備
38 スポーツ・体育・スポーツ行政の概況／体育・スポーツ施設の整備充実／生涯スポ
ーツの推進／競技スポーツの振興／学校における体育・スポーツの充実

42 文化・文化政策の推進／芸術文化の振興／国語・著作権・宗務／文化財の保存・活用
の推進／国立文化施設の整備・充実

46 国際交流・協力・国際交流・協力の概況／教育・学術・文化・スポーツの国
際交流・協力／留学生交流の推進／外国人に対する日本語教育の推進

50 情報化の推進・情報化施策の概況／情報化の進展に対応した各分野の取組

52 文教施設・文教施設のインテリジェント化等の推進／初等中等教育施設の整備方策
／国立学校施設の整備充実

54 平成8年度予算／文部省の機構定員／文教関係の税制

I ある日の学校訪問記

● 舞阪町立舞阪幼稚園(静岡県)
4 天然記念物歳時記「花ごよみ」
● エヒメアヤメ自生南限地帯

表2 名作シリーズ・極楽井

表3 文化財紹介

● 八戸及び周辺地域の
漁撈用具と浜小屋

6 であい、はれあい・高野 進

6I 焦点—文教施策

63 お知らせ

64 中教審ニュース

66 ポイント生涯学習

● ボランティア活動の支援・推進

68 都道府県発—教育学術文化スポンジニュース

● 東京都・京都府・鳥根県・宮崎県

70 どんな講座—大学の公開講座から

● 香川大学・鳥根大学

72 現代スポーツあれこれ

● 競技スポーツの振興と
生涯スポーツの振興

74 科学はいま—理工系へのいざない

● 九州大学機能物質科学研究所

77 鑑賞席・東アジアの仏たち

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

● 新潟県上越地域広域行政組合

80 海外教育ニュース

82 文学のふさと。若い人

84 編集後記

若い人

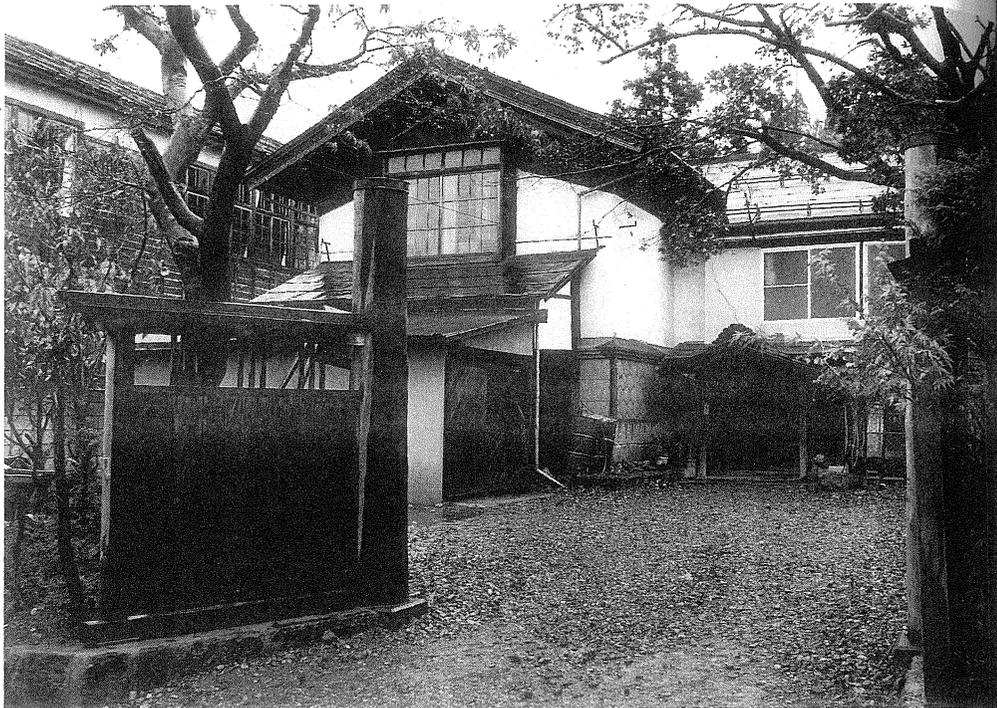
石坂洋次郎

橋本先生は眼を輝かせて間崎の顔を長い間みつめた。間崎は石ころを蹴って返事をしなかった。彼らが歩いて行く一、二間の目前に、人や車が縦横に往来する活気に満ちた情景が次々に展げられた。少し離れたところは霧に包まれているようで彼らの眼にはぼんやりかすんで見えた。

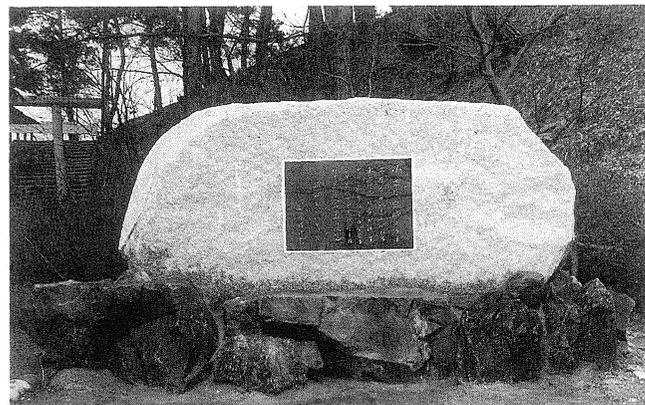
「そのことはだんだん答えさせてください。……て、気楽に答えてください。今日の僕の授業、視学官の講評が当たっておりませんでしたか」

「あんなことも言えるでしょうが、よかったわ、感心しましたわ。というのは貴方がおっしゃった内容には異論が大ありですけど、貴方は御自分で言うことだけは確実に御自分のものにしていらっしゃる、さっきの言葉で言えば、言葉があれだけ身に嵌る、それに感心したのです。そこへ行くとは自分一人だけで、ほんとなこと、正しいことがわかっているような気がしても、教壇に立つとどうもどろで自分のほんとに教えたいことが上手に言えなくなるのです。勉強が足りないのですわ。だけど私貴方のお授業を拝見したあとで、こうこじつけて自分を慰めたの。間崎先生の授業は立派だ、しかし羨んだりまねたりしてはならない、今はぎこちなく下手でもかまわないからお前の頭の中に芽ぎしている考えをふやけさせないでヒタ向きに伸ばして行け、そうすれば間崎先生などはすぐ追い越せる、小さな完成よりもお前の孕んでいる未完成のほうが比較にならないほど立派な大きなものであることを忘れるな、と。その結果、なんでもかんでもともかく貴方よりか私のほうが豪い人間だということにきめてしまったの……。貴方と肩を並べて歩いている今もそう思ってるの……」

「変なんだなあ……貴女って人は……」
間崎は、どこかの小僧さんが撒いた打ち水を無意識に飛びよけた。



「若い人」を執筆した家



石坂洋次郎文学碑（横手公園本丸）

石坂洋次郎、明治三年青森県弘前市に生まれる。慶應義塾大学卒業後、弘前高等女学校に奉職。その後大正一五年九月横手高等女学校に転任。さらに昭和四年横手中学校に転任した。

「田舎に住むのがいやでしかたなかった」が悩んだ末に「田舎に居ても書ける小説を書こう」と生涯を作家と教師の二足の草鞋をはきつづけたという結論に辿り着く。また「八方ふさがりといった状態にあったので、その反動でパツとした派手でデカダグナスな気持ちの作品を書きたい欲求につかれていた」という状況下で「若い人」は書き上げられた。昭和八年「三田文学」に一四〇枚の中編小説として発表。休載しながらも、好評のため五年間で二三〇枚を書き続ける。発表後まもなく、川端康成氏から朝日新聞文芸欄にて評価され、またその年の一〇月には映画化され、本がベストセラーともなった。

江波恵子、橋本先生などのモデルや、多くの頁を費やしている授業視察・修学旅行風景などは、横手高女、横手中学での体験に基づいていることを、後日、洋次郎は「私の文学は、私が一二、三年間教員生活を送った横手の町で目立って成長し、そして花を開かせた」、「私にとっていわば第二の故郷である」と語っている。

昭和一四年上京し、作家生活に入る。
昭和五年に横手市の横手城跡に文学碑が、六二年には文学記念館が設立された。

（石坂洋次郎文学記念館解説員 春日正子）

特集 新たな時代に向けた 教員養成の改善方策について

巻頭言 ● 8 今日の新時代の教員養成改革の意味 ◇ 蓮見音彦
座談会 ● 10 新たな時代に向けた教員養成
◇ 出席者：安藝 武 / 島田輝子 / 角替弘志 / 安齋省一 / 永井順國
◇ 司会：松元昭憲

論文 ● 20 新たな時代に向けた教員養成の
改善方策について ◇ 上寺久雄

● 23 新たな教員養成への期待 ◇ 小関洋治
● 26 六キ口瘦せた先生 ◇ 袖山雅弘
● 28 社会人から教師になって ◇ 滝口幸夫

事例紹介① ● 30 子どもから学ぶ「教育実践ボランティア」◇ 琉球大学
● 33 フレンドシップ事業「子ども理解の体験学」第一弾
「いろいろな交流いろいろな体験」を実施 ◇ 福岡教育大学

事例紹介② ● 36 学校教育における社会人の活用 ◇ 三重県教育委員会
● 38 新たな時代に向けた教員養成の改善方策
について(第一次答申) ◇ 教育助成局教職員課

特別記事 民間ユネスコ活動五〇周年

- 50 民間ユネスコ運動五〇周年を振り返って
◇ 社団法人日本ユネスコ協会連盟
- 52 地域ユネスコ活動は行動の場 ◇ 目黒ユネスコ協会
- 53 国際基督教大学ユネスコアソシエーション
◇ 国際基督教大学ユネスコクラブ
- 54 民間ユネスコ活動ととも歩む
◇ 財団法人ユネスコ・アジア文化センター
- 56 アジアの人文・社会科学研究のために
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業
◇ ユネスコ東アジア文化研究センター
- 57 我が国におけるユネスコ活動の推進
◇ 学術国際局国際企画課

カラー
1 ある日の学校訪問記
◇ 大阪府立東住吉高等学校
(大阪府)
4 天然記念物歳時記
◇ 力モシカ

表2 名作シリーズ◇ 婦人像
表3 文化財紹介◇ 日田祇園の曳山行事

6 であいふれあい ◇ 上川隆也
58 焦点—文教施策
60 中教審ニュース
66 家庭教育のための取組
◇ 教育テレビ放送の実施

68 都道府県発—警備・芸術文化スポーツニュース
◇ 山形県鶴岡市 ◇ 茨城県 ◇ 京都府
◇ 高知県高知市
70 どんな講座—さん講座—金の公蘭講堂から
◇ 弘前大学 ◇ 上智大学

72 現代スポーツあれこれ
◇ 長野オリンピック冬季競技大会の
概要について

73 お知らせ
74 科学はいま
◇ アルツハイマー病における
神経組織の変化の在り方を探る
76 行ってみようやってみよう
◇ 国立沖縄青年の家

78 海外教育ニュース
80 文学のあるさと死にたまふ母
82 鑑賞席—文人画の近代
鉄斎とその師友たち
◇ 新国立劇場開場記念公演
青山半蔵 平成を寛まず
夜明け前

84 編集後記

死にたまふ母

斎藤茂吉

ひろき葉は樹にひるがへり光りつつかくろひにつつしづ心なけれ

みちのくの母のいのちを一目見ん一目みんとぞただにいそげる

死に近き母に添寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞ゆる

死に近き母が目に寄りたまきの花咲きたりといひにけるかな

我が母よ死にたまひゆく我が母よ我を生まし乳足らひし母よ

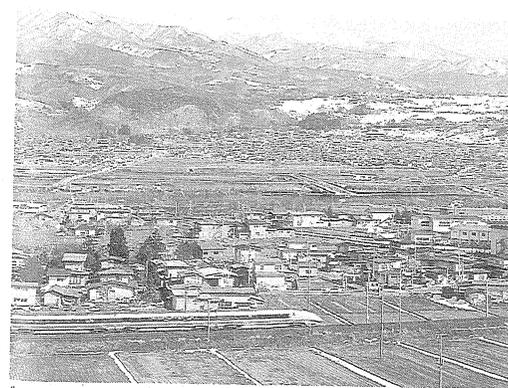
のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にゐて足乳根の母は死にたまふなり

おきな草口あかく咲く野の道に光ながれて我ら行きつも

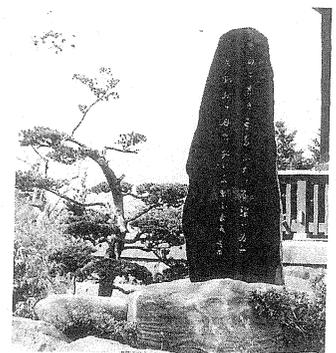
わが母を焼かねばならぬ火を持ってり天つ空には見るものもなし

『赤光』より

(出典「齋藤茂吉全集」第一巻 岩波書店 昭和四八年一月刊)

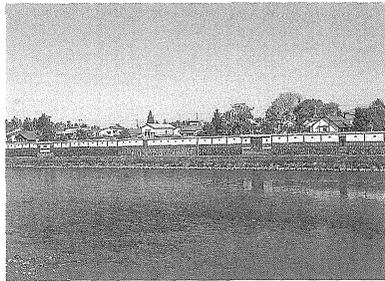


「一目見ん」と息いだ茂吉のふるさと



宝泉寺茂吉歌碑「のど赤き玄鳥ふたつ……」

齋藤茂吉記念館
みちのくの温泉
郷上山市にあり、
茂吉の業績を体
系的に展示公開。
専門資料も充実
している。



茂吉を癒した最上川
往時の舟運を復原
(山形県大石田町)

「死にたまふ母冒頭の一首『ひろき葉』は、一見端然と庭を眺めている作者が居るだけからか、あまり人目を引かない歌である。が、『光りつつ、かくろひにつつ』とリフレインさせ、『しづ心なけれ』と結ぶ詠い出しにこそ、何かが起こるような予感を暗示し、母を悼む絶唱の前奏として見事な効果を上げている。

明治一五年山形県南村山郡金瓶村(現上山市)に生まれ、東京の医師齋藤紀一の養子となった茂吉は、この時、東京帝大医科を出て病院勤務のかたわら、正岡子規『竹の里歌』や森鷗外の観潮楼歌会を機縁に短歌の道に入り、歌誌『アララギ』の有力作家の地位にあった。

第一歌集『赤光』には、「悲報来」や「黄涙餘録」など生と死を直視した歌が多いが、母の死をこれほど高らかに詠い上げた作品は近代文学の中でも稀有の事とされる。『おだまきの花』一首をみても、生涯を農事に明け暮れたであろう母にとり、ようやく手足を伸ばし休める場所として死の床でしかなかったことに茂吉の慟哭の念が滲み出ている。一五歳で養子に出し、出された親子なればこそ、生母への思いは一層深いものであったに違いない。

茂吉の短歌観は、「実相に観入して自然・自己一元の生を写す」写生説にあった。その題材も広く、深い。茂吉の世界は、東北の田園に根差しながらも、古今東西の地・水・火・風に沃野を求めて尽きせぬ泉を汲み上げ、これを人間生命の讃歌に昇華させ得た点において、「土着」から「普遍」へ突き抜けているとも言えよう。

(山形県教育委員会社会教育課長補佐 岩瀬信夫)

特集 学術国際交流の推進

巻頭言 ● 8 学術国際交流によせて ◇井口洋夫

座談会 ● 10

学術国際交流の現状と課題

◇(出席者) 木村嘉孝 / 飯山敏道 / 松村多美子 / 小平桂子 / ネット ◇(司会) 岩本 渉

エッセイ ● 20 私と外来片仮名語 ◇フランシヌ・エライユ

● 22 アメリカの経済と教科書の経済学 ◇小西秀樹

事例紹介 ① ● 24 拠点大学方式等によるアジア諸国との学術国際交流について ◇日本学術振興会

事例紹介 ② ● 28 CERNのLHC計画と国際協力 ◇高エネルギー加速器研究機構

事例紹介 ③ ● 32 日本が参加している国際的な共同研究 IGBP計画 ◇半田暢彦

事例紹介 ④ ● 35 海底孔から地球の営みを探る ◇東京大学海洋研究所

事例紹介 ⑤ ● 38 「人間と生物圏(MAB)計画」の活動 ◇日本MAB計画委員会

解説 1 ● 41 学術国際交流の推進について ◇学術国際局国際学術課

解説 2 ● 46 南極地域観測事業四〇周年 ◇学術国際局国際学術課 / 南極地域観測統合推進本部

カラー

- 1 ある日の学校訪問記 ◇郷ノ浦町立郷ノ浦幼稚園 (長崎県)
- 4 天然記念物歳時記 ◇見島ウシ産地(山口県萩市)
- 表2 名作シリーズ ◇大原 文
- 表3 文化財紹介 ◇絹本着色「釈迦金棺出現図」

6 であいふれあい ◇木坂 涼

50 焦点—文教施策

55 鑑賞席 ◇大草原の騎馬民族 中国北方青銅器

◇福田繁雄ポスター展

56 中教審ニュース

66 霞が関トピックス

68 家庭教育のための取組

◇家庭教育への理解を深めるために 70 都道府県発—教育学術文化フォーラム

◇秋田県 ◇静岡県 ◇奈良県 ◇北九州市

72 どんな講座—こんな講座—大学の公開講座から

◇東京大学 ◇徳山工業高等専門学校

74 現代スポーツあれこれ

◇アウトドアスポーツの振興

76 行ってみようやってみよう

◇国立三瓶青年の家

78 海外教育ニュース

80 文学のふさと ◇智恵子抄

82 お知らせ

84 編集後記

智恵子抄

高村光太郎

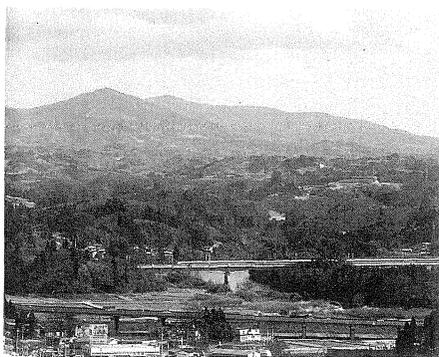
樹下の二人

あれが阿多多羅山、
あの光るのが阿武隈川。

ここはあなたの生れたふるさと、
あの小さな白壁の斑点があなたのうちの酒庫。
それでは足をのびのびと投げ出して、
このがらんと晴れ渡った北国の木の香に満ちた空気を吸はう。
あなたそのもののやうなこのひいやりと快い、
すんなりと弾力ある雰囲気^{きんき}に肌を洗はう。
私は又あした遠く去る、
あの無頼の都、混沌^{こんとん}たる愛憎の渦の中へ、
私の恐れる、しかも執着深いあの人間喜劇のただ中へ。
ここはあなたの生れたふるさと、
この不思議な別箇の肉身を生んだ天地。



智恵子がその上に「ほんとの空」があるという
安達太良山。(二本松市)

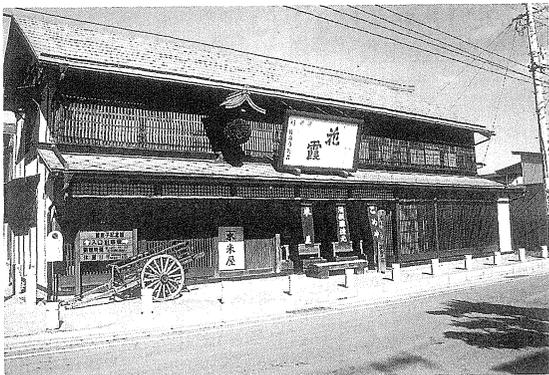


今はその上を新幹線が渡る阿武隈川。(安達町)

まだ松風が吹いてゐます、
もう一度この冬のはじめの物寂しいパノラマの地理を教へて下さい。

あれが阿多多羅山、
あの光るのが阿武隈川。

(出典「智恵子抄」新潮社新潮文庫)



造り酒屋であった智恵子の生家。
裏手には記念館もあり、一般に公開されている。(安達町)

智恵子の生家の裏にある小高い丘に登ると、眼下には福島県の中央をゆったりと北上する阿武隈の流れ、振り向けばその上に「ほんとの空」があるという安達太良の峰々が望まれる。心安らぐふるさと風景を、智恵子は光太郎に一つ一つ指さしながら教える。

「樹下の二人」は二人の二四年におよぶ結婚生活の前半、大正二二年の作品であり、光太郎は眼前に広がるパノラマを、「この不思議な別箇の肉身を生んだ天地」と、智恵子の存在と一体として感じている。

福島県安達郡油井村（現在の安達町）の造り酒屋に生まれ、女子大卒業後も東京で洋画を学び、雑誌「青鞥」の表紙なども描いていた長沼智恵子が、光太郎と結婚したのは大正三年。ちょうど光太郎が最初の詩集『道程』を発表した年である。欧米への遊学で身につけた近代的精神と旧習との相剋に悩み、自分を見失いかけていた光太郎にとって、智恵子との出会いは大きな救いであり、その純粹な愛は一筋の光明のように感じられたに違いない。

しかし、この幸福も最後の破綻^たに向かって確実に動き出していた。肋膜炎^きを病み、父の死、実家の破産と相次ぐ中、昭和六年ころには智恵子の心に病の兆しが現れはじめる。

光太郎自身「苦しく悲しい詩集であった」と語り、妻を亡くした三年後（昭和一六年）に編まれた『智恵子抄』は、その恋愛から死後の追慕まで智恵子をめぐむる詩や短歌、散文を痛恨の思いでまとめた、類まれな愛の詩集となっており、「樹下の二人」や「レモン哀歌」は国語の教材としても取り上げられている。

(福島県教育委員会文化課文化財主査 大和田修)

特集 文化振興マスタープラン

巻頭言 8 文化立国の実現に向けて

樋口廣太郎

座談会 10 二一世紀の文化政策に
期待すること

(出席者) 水上 忠 / 高階秀爾 / 如月小春 / 浅尾新一郎 / 林田英樹

論文 22 二一世紀に向けた
メディア芸術の新たな展開

滝川精一

エッセイ 24 震災復興が文化振興に
示唆すること

新野幸次郎

26 文化振興マスタープランによせて

江戸京子

事例紹介① 28 厚木の子どもと舞台芸術

厚木市文化会館

事例紹介② 31 大垣市北校下

文化財愛護少年団の歩み

大垣市教育委員会

34 平成九年度(第一回)文化庁

メディア芸術祭

文化庁文化部芸術文化課

資料 36 文化振興マスタープラン

文化立国の実現に向けて

文化庁

カラー

4 天然記念物歳時記
——十和田湖および奥入瀬溪流

表2 名作シリーズ
——聖女カタリナの神秘の結婚

表3 文化財紹介
吉井町筑後吉井

6 私と教育、私とつけ

——フランスワーズ・モレジャン

50 焦点——文教施策

60 中教審ニュース

68 インフォメーション

69 私の選んだ一冊

70 都道府県発

●教育・学術・文化・スポーツニュース

72 科学はいま

74 現代スポーツあれこれ

76 行ってみよう やってみよう

78 海外教育ニュース

80 文学のふるさと

82 鑑賞席

84 編集後記

——神奈川県、長野県辰野町、
石川県小松市、沖縄県

——宇宙科学研究所

——フットサル

——国立赤城青年の家

——最後の将軍

最後の将軍

— 徳川慶喜 —

司馬遼太郎

ほどなく、吉子の腹から慶喜が生まれた。七郎麿と名づけられた。

「この子は、武門の血か官家の血か」

斉昭は、その子の襁褓のころからさまざまな期待をこめて観察していた。

斉昭は、諸事異風の人である。とくに教育熱心ということにおいてそうであった。その教育熱心さは、斉昭自身、その少年時代、乳母に教育されるのをきら

い。

—— 男子は男子の手で育てられねばならない。として自分で父に頼み、乳母を廃し、屈強の藩士ふたりを傳人にえらんでもらったほどであった。当然、常の大名とはちがいが、わが子へのそういう意味の関心が強烈であった。

大名の子弟は、江戸で育つ。江戸屋敷で育てねばならぬのが、幕府の法である。幕制では大名の子を人質と解釈している。

しかし斉昭はとくに幕府に乞い、水戸家だけに例外を認めてもらっていた。子は江戸屋敷で生まれる。しかし嬰兒のあいだに江戸を離れさせ、国もとの武骨な藩士の手で育てさせた。都府の華美の風が感染するのをおそれたのである。

それが家法である。慶喜も、そのようにさせられた。江戸人というよりも、水戸人たるべく育てられた。

このため誕生の翌年、江戸小石川邸を去り、その後ずっと常陸水戸城にいたため、父母の目に触れることがなかった。慶喜が十歳のとき、斉昭はひきびきで国へかえり、成長した慶喜をはじめて見た。斉昭は在府中の数年、熱心に慶喜を観察し、慶喜が満五歳のときなども、

「あの子だけはちがう」

と、老臣たちの前で人相見のようなことをいった。京の堂上ふうではないというのである。

天晴 あつぱ 名将とならん。されどよくせずば手にあまるべし。

（「最後の将軍—徳川慶喜—」昭和四七年 文藝春秋刊）

と、斉昭はいった。斉昭は心中、徳川家の家祖である家康の再来を期待した。



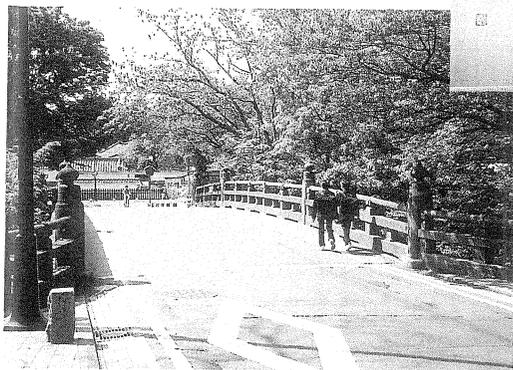
弘道館



慶應3年撮影（将軍時代）
（茨城県立歴史館蔵）



書「誠」徳川慶喜筆
（茨城県立歴史館蔵）



大手橋から弘道館（正面）を臨む

『最後の将軍』は、江戸幕府一五代将軍徳川慶喜（天保八年（一八三七）—大正二年（一九一三））の一生を題材にしており、彼の幼少期から将軍職を退き明治維新を迎えた時期までを中心としています。

慶喜が水戸と深い関係をもつ時期は、天保九年から弘化四年（一八四七）までの幼少期と、江戸幕府崩壊後の慶應四年（一八六八）四月から同年七月までの二つの時期があります。慶喜の幼少期の教育は、水戸藩九代藩主であった父・徳川斉昭の方針で、質実剛健、実生活に役立つ学問の修得にありました。日常生活では、四書五経の復読・習字のほか、水戸藩の藩校弘道館で行われた四書五経の素読や弘道館で学ぶ諸生の修業の見学などがありました。慶應四年には、江戸城を明け渡した前将軍慶喜は、幼少期を過ごした弘道館で謹慎生活を送りました。

弘道館は、徳川斉昭が天保二年（一八四二）に創立しました。敷地面積は一七万八四〇〇㎡で、正庁・至善堂・文館・武館・医学館等が設置され、訓練場や馬場もありました。昭和二十七年旧弘道館として国の特別史跡に、同三九年に正庁・至善堂・正門が国の重要文化財に指定されました。また、昭和四二年に水戸城跡が茨城県の史跡に指定されました。本年はNHKの大河ドラマ「徳川慶喜」の放映に因り、水戸市にある茨城県立歴史館や徳川博物館等では徳川慶喜関連の展示を行っています。慶喜の遺品や作品等から、慶喜が最後の将軍といわれる政治家としての面のほか、趣味の世界にも多芸・多才であったことが窺えます。

（茨城県教育委員会文化課文化財保護主事 川俣正英）

特集 学校等の防災体制の充実について

巻頭言 ● 8 「防災リテラシー」をはぐくむ ◆高倉 翔

座談会 ● 10 より安全な学校へ

◆(出席者) 近藤靖宏／川村英子／井野盛夫／徳山 明 ◆(司会) 清水 潔

論文 ● 18 学校防災の役割と課題 ◆廣井 脩

エッセイ ● 22 よき市民 よき隣人 ◆山谷えり子

事例紹介① ● 24 学校防災体制の充実に向けての取組

◆神戸市教育委員会

事例紹介② ● 26 江東区における学校防災の現状と課題

◆東京都江東区教育委員会

事例紹介③ ● 28 静岡県における地震防災対策の現状

◆静岡県教育委員会

体験記 ● 30 震災から一年が過ぎて ◆上田統雄

● 32 救援物資隊に参加して ◆澤本有子

解説 ● 34 文部省における学校等の防災体制の充実に向けての取組

◆大臣官房文教施設部指導課、教育助成局地方課・施設助成課
体育局長学校健康教育課

資料 ● 38 学校等の防災体制の充実について
(第一次報告)の概要

◆学校等の防災体制の充実に関する調査研究協力者会議

● 47 参考資料一覧

カラー

1 ある日の学校訪問記

◆松尾村立松尾中学校(菅手県)

4 天然記念物歳時記「花ごよみ」

◆大雪山(北海道)

表2 名作シリーズ ◆時絵玉すだれ文盤

表3 文化財紹介 ◆組踊

6 であいふれあい ◆萩原健司

48 焦点―文教施設

55 中教審ユース

62 ポイント生涯学習

◆高齢者の学習活動の推進

64 都道府県発―教育・学術文化・スポーツユース

◆山梨県 ◆奈良県 ◆鳥取県 ◆長崎県

66 どんな講座こんな講座―大学の公開講座から

◆福島大学 ◆中央学院大学

68 現代スポーツあれこれ

◆新しく古いニースポーツ

◆スポーツの多様化時代

70 科学はいま―理工系へのいざない

◆北海道大学低温科学研究所

73 お知らせ 刊行物紹介

76 鑑賞席

◆東京国立近代美術館 国立西洋美術館
所蔵作品による

交差するまなざし

◆生誕二〇〇年記念特別展

◆シーボルト父子のめいた日本

78 ぼくたちわたしたちのワークエント

◆石川県富来町教育委員会

80 海外教育ユース

82 文学のふもと ◆あの町この町

84 編集後記

あの町この町

野口雨情

あの町この町

日が暮れる

日が暮れる

今きたこの道

帰りやんせ

帰りやんせ

宇都宮市西部に位置する鶴田町。そこにある小高い羽黒山の麓の一隅に、櫛や櫛などの木々に囲まれた野口雨情の旧居がひっそりと佇んでいる。

野口雨情は、北原白秋、西条八十と並んで、明治・大正・昭和の三代にわたり、詩・民謡・童謡の世界に業績を残した詩人である。「七つの子」、「青い目の人形」、「赤い靴」、「しゃぼん玉」などは、今なお歌い継がれている。

「あの町この町」は、大正一三年、雑誌「コドモノクニ」に中山晋平作曲で発表された童謡である。田舎町の夕暮れとき、無心になって遊ぶ子供たちへの愛情が感じられる歌であり、日本人の郷愁をかきたてる作品となっている。

ここ鶴田町は、雨情が太平洋戦争の戦禍を避けるために、つる夫人と共にやってきた疎開先である。旧居のある街道筋は、かつては全国各地どこにも見られた田園風景が広がり、なだらかな坂道とともに、いかにもこの歌に表現されている情景にふさわしい土地である。雨情は病を得て、昭和二〇年一月二七日、この地で永眠した。

旧居正面のこの歌の詩碑は、昭和三十三年地元「雨情会」の手で建てられたもので、つる夫人の希望でこの童謡が選ばれたと言われている。

地元の小学校では、雨情の童謡の合唱会など、雨情にちなんだ教育活動が行われている。雨情がうたった「童心」が、これからも当地はもちろん日本全国の子供たちの内に育まれていくことであらう。

(栃木県教育委員会義務教育課指導主事 川村 滋)



野口雨情旧居



「あの町この町」詩碑



宇都宮市立明保小学校合唱クラブのコーラス風景（詩碑の前にて）

特集 社会との 連携が進む 学術研究

巻頭言 ● 6 大学の社会に対する貢献・西澤潤一

座談会 ● 8 今後の産学連携の在り方

・出席者 生駒俊明／榎之原進行／安田幸夫／青山聖子・司会 遠藤 啓

論文 ● 18 産業界から大学への期待意識調査を中心に・三井恒夫

● 20 地域における産学連携の在り方・森 邦夫

エッセイ ● 22 産・官・学の連携に

尊敬と信頼関係を取り戻そう・田中威子

事例紹介① ● 24 東京都立科学技術大学の産学交流・東京都立科学技術大学

事例紹介② ● 26 立命館大学における産官学交流の現状について

・立命館大学

事例紹介③ ● 28 共同研究センターの活動状況・富山大学 ・熊本大学

事例紹介④ ● 32 寄附講座の活動状況・千葉大学 ・東京工業大学

事例紹介⑤ ● 36 民間等との共同研究による研究成果

・室蘭工業大学 ・東京大学 ・京都大学 ・九州大学

解説 ● 40 大学と産業界等との研究協力について

・学術国際局研究助成課研究協力室

特別記事 いじめ問題への緊急対応について

● 46 いじめ問題への緊急対応について

かけがえのない子どもを守るために

・初等中等教育局中学校課

1 いじめ問題のある日の学校訪問記

・吉備高原学園高等学校(岡山県)

4 天然記念物歳時記

・世界一長い尾をもつ鶏

土佐のオナガドリ(高知県)

表2 名作シリーズ・草枕絵巻

表3 文化財紹介・白川村荻町

カラー

51 教育文化と地域づくり ● 東京都町田市

54 焦点―文教施策

人への道・原田康夫

61 霞が関トピックス

62 中教審ニュース

64 私の本棚から・藤島 穂

65 鑑賞席 ● イカット展

※江の島の「下ネシアのてんかたち

66 都道府県発―教育・学術文化ニュース

・神奈川県・奈良県・徳島県・大分県

68 こんにちはぼん・バイヤサイハン・バイヤガル

70 '96アトランタ―我が国競技ボウルの最新録・野球

72 科学はいま―理工系(いざな)

75 東京大学生産技術研究所

76 ぼくたちわたしたちのワイクランド

78 海外教育ニュース

80 文学のふもと・ふもと

82 読者からのたより

83 お知らせ

84 編集後記

ふるさと

涼々として

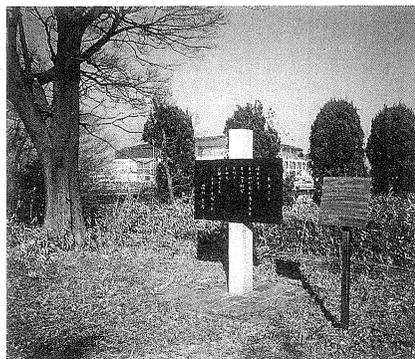
天の川がながれてゐる

すつかり秋だ

とほく

とほく

豆粒のやうなふるさとだのう



中央大橋河畔の詩碑「ふるさと」

利根川に沿っておりくる赤城おろしを横切るように中央大橋は架かっている。赤城は暮鳥が愛した山だ。そして、堤ヶ岡小学校の若き准訓導の暮鳥は、前橋聖マツテア教会で英語を学ぶべく「夜」と利根に架かる橋を渡った。これが、ふるさと群馬から暮鳥を詩人としてはばたかせるきっかけとなったのである。その中央大橋の西河畔に山村暮鳥の詩碑「ふるさと」は建っている。

「ふるさと」は、詩集『雲』に収められている。その『雲』は、『聖三稜玻璃』の象徴主義、「風は草木にささやいた」の人道主義的作品を経て、暮鳥がたどりついた東洋的な静寂枯淡の境地を示す晩年の代表的な詩集である。宇宙の運行の大きさを感じながらの望郷は、ふるさとを遠く小さくするが、それゆえに一層かけがえのないものとして暮鳥の感懐によみがえる。暮鳥四〇歳。没年、茨城県大洗で書かれた作品であった。

ほかに暮鳥の詩碑は、群馬町の群馬中央中学校に「月」、同じく堤下公園に「独唱」があり、伊香保町水沢寺に「ひ

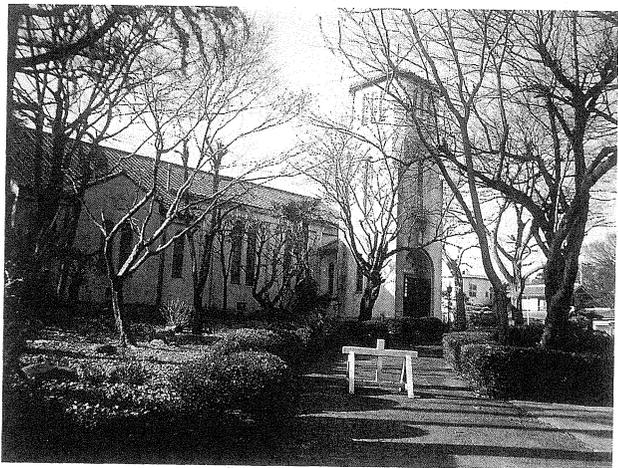
ぐらし」がある。

暮鳥の業績を紹介する副読本には、小学生向けに『群馬の子ども文学風土記』が、中学生向けに『ふるさとの文学』が、高校生向けに『高校生のための群馬の文学』がある。暮鳥資料は、七月に開館する県立土屋文明記念文学館で公開されるほか、県立図書館が収蔵している。また、市立前橋文学館は暮鳥の常設展示コーナーを設けている。

(群馬県教育委員会文化振興課主幹兼指導主事 林 政美)



群馬大橋より赤城山・中央大橋を望む



聖マツテア教会

特集 地域文化新時代 文化のまちづくり

巻頭言 ● 8 地域からの文化発信―無名塾の活動について◇仲代達矢

座談会 ● 10 地域文化新時代
◇出席者 松浦幸雄／平田オリザ／中村信夫／永井多恵子／◇司会 竹本廣文

論文 ● 20 文化のまちづくりのマネージメントとは
◇衛 紀生

随想 ● 24 地域文化新時代 ◇章刈津三
エッセイ ● 28 変化の予感 ◇松本 修

● 30 地域文化と共鳴するバレエ ◇牧 阿佐美
事例紹介① ● 32 演劇は人と人を結ぶアート ◇DSP実行委員会
事例紹介② ● 34 伝統芸術と現代芸術が融合した文化のまちづくり
◇山形県庄内地方拠点都市地域

事例紹介③ ● 36 挑戦する勇気あげます!! ◇新潟県小出郷文化会館
事例紹介④ ● 38 スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド ◇富山県福野町
事例紹介⑤ ● 40 二一世紀への新価値づくり
山形の美学を世界へ―臥龍桜日本画大賞展◇岐阜県宮村

解説① ● 42 「芸術情報フラザ」の活動内容◇芸術情報フラザ
解説② ● 44 地域文化の振興について◇文化庁文化部地域文化振興課

特別記事 二一世紀に向けた介護関係人材育成の在り方

- 48 これからの高齢社会を支える介護関係人材の育成
C.A.R.E.プラン'97の持つ意義について◇鈴木章夫
- 50 二一世紀に向けた介護関係人材育成の在り方について◇高等教育局医学教育課
- 52 育成段階における医療と福祉の連携の推進◇川崎医療福祉大学
- 53 福祉社会システム専攻という夜間大学院
◇東洋大学大学院社会学研究科
- 54 高齢社会における介護関係施策の課題
◇厚生省社会・援護局施設人材課
- 55 福祉サービス現場からの期待する医療系人材
二一世紀医学・医療懇談会第二次報告を読んで◇橋本正明

1 ある日の学校訪問記
◇神奈川県立平塚マツコ学校
(神奈川県)

カラ―
4 天然記念物歳時記
◇トコフタケ自生地(岡山県)
本谷のトコフタケ自生地(岡山県)

表2 名作シリーズ◇打薬扁壺
表3 文化財紹介◇郡上踊

6 であいふれあい◇平尾誠二

57 鑑賞席◇ものがたりの森
子どものための美術展
◇開館10周年記念展
国立国際美術館の二〇〇年

58 焦点―文教施策
63 中教審ニュース

70 家庭教育のための取組
◇家庭教育への理解を深めるために

72 都道府県発―教育・学術文化・スポーツニュース
◇北海道東川町 ◇千葉県 ◇滋賀県
◇鳥取県

74 どんな講座 どんな講座―大学の公開講座から
◇東京農工大学 ◇沖縄大学

76 現代スポーツあれこれ
◇競技力向上を支える強化スタッフについて
行つてみようやってみよう
◇国立オリンピック記念青少年総合センター

80 海外教育ニュース
82 文学のふるさと◇田舎教師

84 編集後記

特集 情報化の進展と文教施策

巻頭言 ● 6 高度情報通信社会と人間・猪瀬 博

座談会 ● 8 教育の情報化——現状と課題

・(出席者) 石井威雄 / 知宿俊文 / 野中ともよ / 深山 照 ・(司会) 小口浩一

事例紹介① ● 20 電子図書館システムについて・学術情報センター

事例紹介② ● 24 主体的に自らの生活を切り開く

生徒の育成を目指して

生徒一人一人の個性を伸ばすためのコンピュータの

有効な活用法・岐阜県板取村立板取中学校

提言 ● 28 文教分野における情報活用の将来像・坂元 昂

● 30 頼られる図書館をめざして

神奈川県立図書館の場合・吉田 敦

● 32 スポーツ分野における情報活用の将来像・大館 順

エッセイ ● 34 学校のパソコン教育で地域貢献を・山根 眞

解説 ● 36 文政行政における情報化への取組について

マルチメディア時代に向けての対応

・大臣官房政策課マルチメディア政策企画室

資料 ● 46 マルチメディアの発展に対応した

文教施策の推進について(審議のまとめ)(要約)

カラー

1 いま、個性ある日の学校訪問記

・川副町立川副中学校(佐賀県)

4 天然記念物歳時記

・杉沢の沢スギ(富山県)

表2 名作シリーズ・愛染明王像

表3 文化財紹介・大燈国師墨蹟

50 人・この道・山口久美子

51 教育・文化と地域づくり⑧・山梨県牧丘町

54 中教審ニュース

60 焦点—文教施策

67 私の本棚から・藤田良雄

68 都道府県発—教育・学術・文化ニュース

・青森県・岐阜県・鳥取県・愛媛県

70 こんにはらっぱん

・ラファエル・エミリオ・アルカルテ

72 '96アトランター表が園毅スボンの最前線

・ウエイトリフテイナング

74 科学はいま—理系へのいざない

・鳥取大学乾燥地研究センター

77 鑑賞席・共催展清水九兵衛展

環境との親和(ラフニテ)

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

・北九州市教育委員会

80 海外教育ニュース

82 文学のふるさと・野菊の臺

84 編集後記

伊藤左千夫

野菊の墓

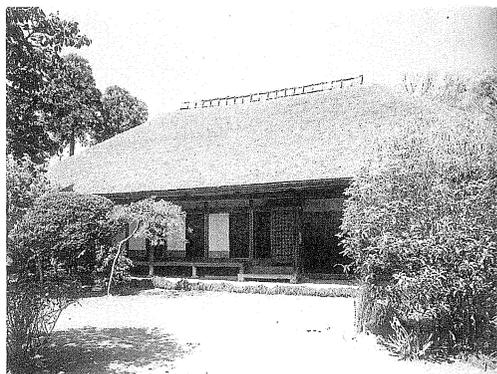
「まあきれいな野菊、政夫さん、わたしに半分おくれたら、わたしはほんとうに野菊がすき。」

「ぼくはもともとから野菊が大すき。民さんも野菊がすき……」

「わたしなんでも野菊の生まれ変わりよ。」

「民さんはそんなに野菊がすき……どうりでどうやら民さんは野菊のようなんだ。」

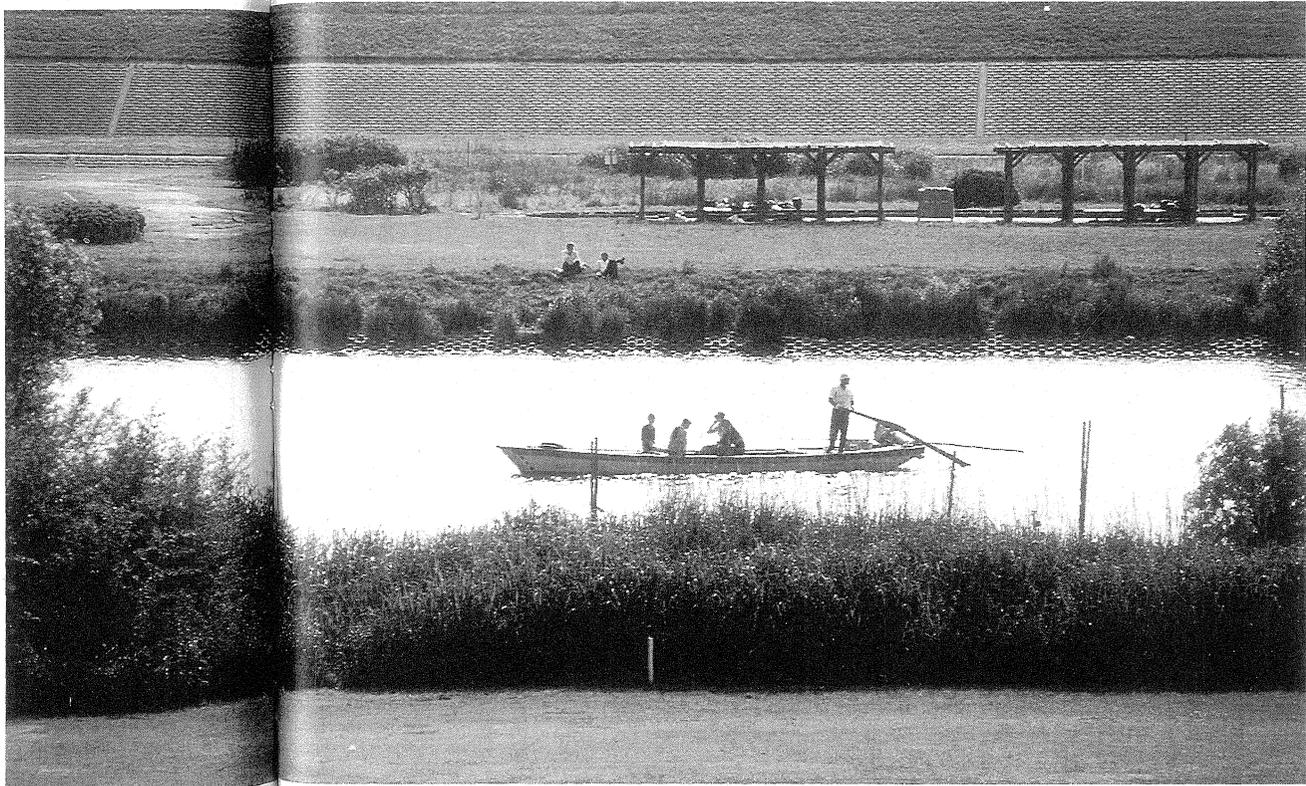
民子はわけてやった半分の野菊をおおにしておいてうれしかった。



伊藤左千夫生家

『野菊の墓』の作者伊藤左千夫は、千葉県成東町が生んだ歌人である。元治元年（一八六四）本町殿台で生まれた。明治一四年、政治家への志をたてて上京、法律学校に学ぶが、やがて目を病み途中で修学を断念し、失意のうちに帰郷した。その後約四年間、両親の元で農業を手伝っていた左千夫は、明治一八年、二〇歳の時、再び上京。東京や横浜などの乳牛牧場で必死に働き通した。その甲斐あって、本所茅場町に搾乳業を開業することになった。「牛飼いの歌人」と呼ばれる所以である。

左千夫は、明治三九年（一九〇六）処女小

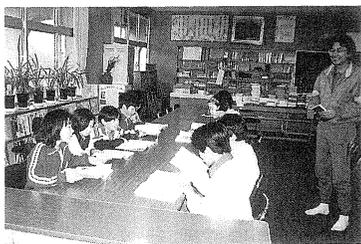


矢切の渡し（松戸市）

説『野菊の墓』を発表した。この小説は江戸川付近の田園を舞台に、旧家の息子政夫と二つ年上の従姉民子との淡く可憐な恋を描いたものであり、現在でも中学生や高校生の愛読書の一つとなっている。結末は、大人の干渉で実ることはなかったが、左千夫を世に出したの、短歌よりもむしろこの『野菊の墓』である。

この小説の背景は左千夫自身の生まれ育ったなかに見えることができる。この時代の結婚は、家の格式が重んじられ、家同士の縁組が多かった。政夫と民子の場合も、民子が年上であるという理由もあるうが、周囲の意見に従わざるを得なかったためである。

『野菊の墓』のモデル民子は、左千夫が慕いながらも結婚できなかった年上の女性川島光といわれている。また、『野菊の墓』では、政夫の家は、「矢切り」の齊藤となっているが、成東町殿台に現存する左千夫の生家がそのままに描かれている。当時、地主といわれた農家の典型的な建築様式である。



学校図書室での読書指導風景

なお、成東町歴史民俗資料館（左千夫記念館友の会）は、昭和五九年六月に『野菊の墓』をも収録した『左千夫さん』を発刊し、学校や公民館での読書指導や郷土の研究に役立っている。

千葉県成東町教育委員会教育長 中村克巳
（左千夫友の会会長）

特集 国語施策50年 新しい時代に向けて

巻頭言 ● 8 国語施策五〇年の歩み ◆ 金田一春彦

座談会 ● 12 国語施策に期待するまじと
◆ 出席者：水谷 修／松村 明／堀田倫男／西尾瑠子／如月小春 ◆ 司会：大島有史

論文 ● 24 戦後五〇年の国字問題
仮名遣いに関する施策を中心に ◆ 築島 裕

● 28 日本語教育の五〇年 ◆ 野元彌雄

● 31 情報化と日本語について ◆ 荻野綱男

エッセイ ● 34 日本語とわたし ◆ グレゴリー・クラーク

● 36 現代表記の効用と、戦前の当て字 ◆ 斎賀秀夫

事例紹介 ● 38 太田市における在住外国人のための
日本語教育 ◆ 群馬県太田市

事例紹介 ● 40 夢のある町づくりへ行動！

「全国方言大会」 ◆ 山形県三川町三川トピア創造委員会

事例紹介 ● 42 国語表現でのビデオテープの活用

◆ 東京都立鎌倉高等学校

資料 ● 44 国語施策と国語審議会の五〇年 ◆ 文化庁文化部国語課

● 48 国語施策の普及

● 49 文化庁の日本語教育施策

1 ある日の学校訪問記

◆ 太宰府市立
太宰府西小学校(福岡県)

4 天然記念物歳時記「花ごよみ」

◆ 滝前不動のラジ(宮城県川崎町)

表2 名作シリーズ ◆ 金蓉

表3 文化財紹介

◆ 岩手県蔭前遺跡出土品・土面

6 であい、ふれあい ◆ 植田和弘

50 焦点―文教施策

58 お知らせ

60 中教審ニュース

64 ボイト生進学習

◆ 多様で高度な学習機会の提供

66 都道府県発―教育・学術・文化・スポーツニュース

◆ 秋田県 ◆ 岐阜県 ◆ 高知県 ◆ 鹿児島県

68 いろんな講座―こんな講座―大学の公開講座から

◆ 徳島大学 ◆ 長崎大学

70 現代スポーツあれこれ

◆ アンチ・ドーピング

72 科学はいま―理系へのいきさつ

◆ 東京大学医科学研究所

75 鑑賞席 ◆ 企画展示 失われゆく番匠の
道具と儀式

76 刊行物紹介

78 ほくたろ、わたしたちのワイクエンド

◆ 北海道広島町中央公民館

80 海外教育ニュース

82 文学のふるさと ◆ 武蔵野

84 編集後記

武蔵野

国木田独歩

必ずしも道玄坂といはず、又た白金といはず、つまり東京市街の一端、或は甲州街道となり、或は青梅道となり、或は中原道となり、或は世田ヶ谷街道となり、郊外の林地田圃に突入する処の、市街ともつかず宿駅ともつかず、一種の生活と一種の自然とを配合して一種の光景を呈し居る場処を描写することが、頗る自分の詩興を喚び起すも妙ではないか。なぜ斯様な場処が我等の感を惹くだらうか。自分は一言にして答へることが出来る。即ち斯様な町外れの光景は何となく人をして社会といふもの、縮図でも見るやうな思をなさしむるからであらう。

「武蔵野」九

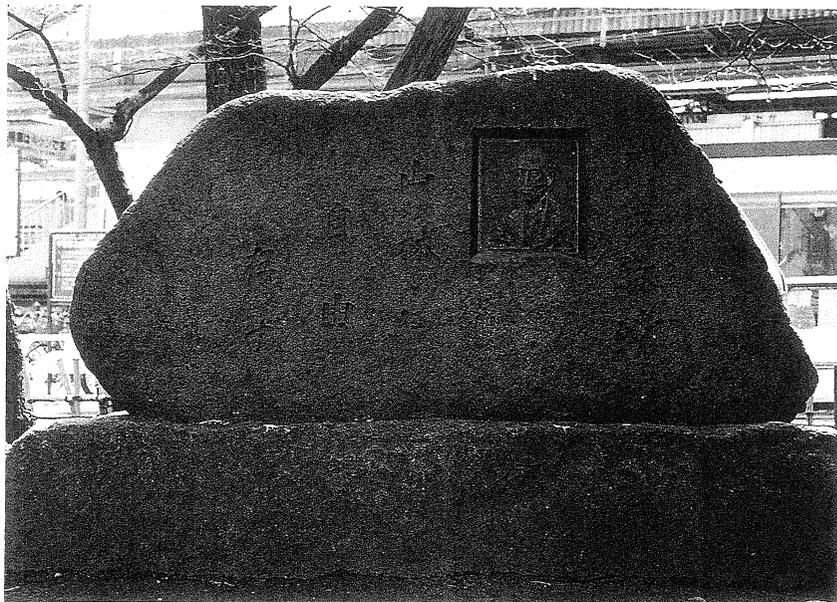


雑木林と丘のある武蔵野の風景
(出水 操・画「晴れゆく丘」)

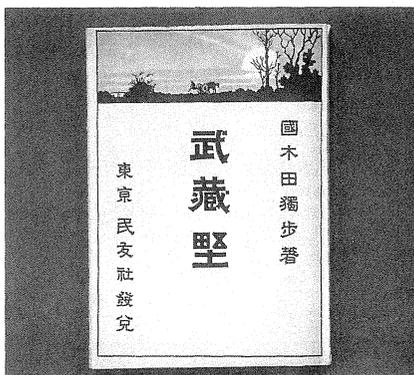
明治二九年から三〇年まで東京の上渋谷宇田川一五四(現、渋谷区渋谷駅北西付近)に住んだ国木田独歩は、明治三年「国民之友」に、武蔵野の林と野の詩趣を説いた。「今の武蔵野」を発表した。その後「武蔵野」と改題して、小説集「武蔵野」に収録され、国語の教材等に採用されるなど、広く親しまれている。

独歩の考えていた武蔵野の範囲は、西は雑司が谷から板橋の中山道の西側を通って川越近傍まで達し、旧入間郡を包んで立川に至り、さらに多摩川沿いを丸子を経て下目黒に至り、東は亀戸から小松川、木下川、堀切を経て千住近辺までとしている。

元来日本人は松林の光景に美術的・文学的価値を認めているが、雑木の落葉林が広がる武蔵野の一斉



独歩詩碑「山林に自由存す」(武蔵野市三鷹駅北口前)
題字 武者小路実篤書



「武蔵野」(民友社 明治34年)

に紅葉し落葉する光景は、色彩の二様な松林をしのぐ価値がある、と独歩は言っている。

また、独歩は、武蔵野の特徴を「野と林が交錯して自然と生活が密着し、幾筋もの縦横に通ずる道を歩めば詩趣を発見できるし、町外れの光景は、人をして社会の縮図を見る思いがし、都会の生活の名残と田舎の余波とが落ち合う場所に詩趣があり、都会の人にも田舎の人にも感興を起こさせる物語が軒先に隠れていそうに思われる、と言っている。

この作品は、昨今の変貌の著しい自然環境の中で、林や野のある自然の価値を再発見するために、今一度読み返してみるべき一書であらう。

(東京都近代文学博物館学芸担当係長 仙石鶴義)

特集 薬物乱用防止教育の充実

巻頭言 8 今日の薬物乱用問題が問いかけるもの 和田 清

座談会 10

薬物乱用防止教育の充実

(出席者)上野純一／鈴木 宏／佐能暲雄／並木茂夫／高野惣一／(司会)石川哲也

論文 18 学校における

薬物乱用防止教育の視点

勝野眞吾

随想 22 アンチ・ドーピング教育を考える

川原 貴

事例紹介① 24 教育活動全体を通して行う

薬物乱用防止教育

東京都千代田区立麹町中学校

事例紹介② 26 見て・試して・楽しい

都高P連における薬物乱用防止教育への取組

群馬県立高崎工業高等学校

事例紹介③ 28 都高P連における薬物乱用防止教育への取組

東京都公立高等学校PTA連合会

見聞記 30 薬物乱用防止教育に関する海外視察

鬼頭英明

32 国連総会麻薬特別会期について

33 薬物乱用は一度だけでも「ダメ。ゼッタイ。」の社会環境をつくらう

財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター

34 薬物から子どもを守るために―千葉県松戸市立高木第一小学校

解説 36 薬物乱用防止教育の推進

体育局学校健康教育課

資料 42 児童生徒の覚せい剤等の薬物に対する意識等調査

46 薬物乱用者数の推移

47 薬物乱用関連用語解説

1 記念館めぐり●ゆかりの地を訪ね

伊能忠敬記念館(千葉県)

4 天然記念物歳時記

南硫黄島

表2 名作シリーズ

サンクトピロへの港

表3 文化財紹介

金山城跡

カラー

6 私と教育、私としつけ

マリ・クリスティーヌ

48 焦点―文教施策

62 読者からのたより

63 中教審ニュース

67 私の選んだ一冊

大南英明

68 都道府県発

●教育・学術・文化・スポーツニュース

北海道、千葉県、香川県直島町、大分県

70 科学はいま――核融合科学研究所

72 現代スポーツあれこれ

オリエンテーリング

74 行ってみよう やってみよう

国立大隅少年自然の家

76 海外教育ニュース

一房の葡萄

78 文学のふもと

インフォメーション

82 鑑賞席

84 編集後記

一房の葡萄

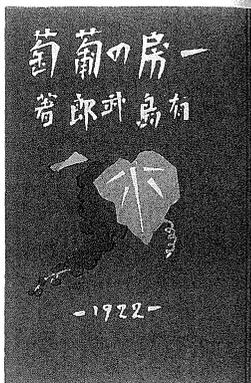
有島武郎

僕は小さい時に繪を描くことが好きでした。僕の通つてゐた學校は横濱の山の手といふ所にありましたが、そこいらは西洋人ばかり住んでゐる町で、僕の學校も教師は西洋人ばかりでした。そしてその學校の行きかへりには、いつでもホテルや西洋人の會社などが、ならんでゐる海岸の通りを通るのでした。通りの海添ひに立つて見ると、眞青な海の上に軍艦だの商船だのが一ぱいならんでゐて、煙突から煙の出でゐるのや、櫓から櫓へ萬國旗をかけたわたしたのやがあつて、眼がいたいやうに綺麗でした。僕はよく岸に立つてその景色を見渡して、家に歸ると、覚えてゐるだけを出來るだけ美しく繪に描いて見ようとしました。けれど、もあの透きとほるやうな海の藍色と、白い帆前船などの水際近くに塗つてある洋紅色とは、僕の持つてゐる繪具ではどうしてもうまく出せませんでした。いくら描いてもく本當の景色で見るやうな色には描けませんでした。

(出典 『一房の葡萄』大正十一年 叢文閣)



現在の横浜港の風景



『一房の葡萄』著者自装

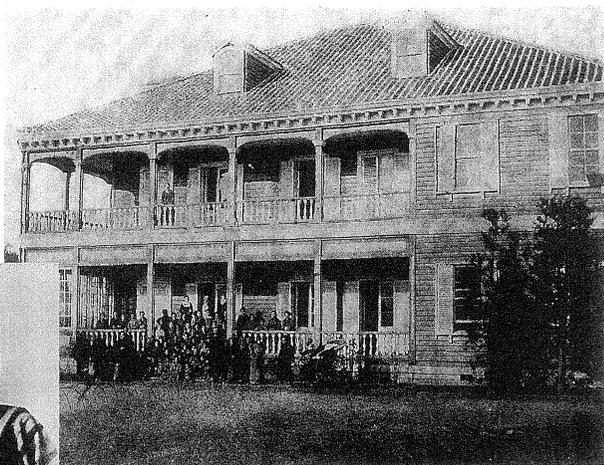
横浜・山手のミッシヨンスクールに通う内気な少年「ぼく」は、通学途中に目にする港の美しい風景に魅せられそれを描きたいばかりに友人ジムの西洋絵具を盗んでしまふ。友人たちに発見され後悔にさいなまれる「ぼく」を女性教師はやさしく諭す……。

『或る女』、『生れ出づる悩み』などの作品で知られる作家・有島武郎は一八七八(明治一一)年東京生まれ。五歳の時、父が横浜税関長となつたため一家で横浜月岡町(現・中区老松町)の官舎に移り住んだ。山手の外国人居留地でアメリカ人から英語を習ひ、横浜英和学校(後の成美学園)に学んだが、このころの体験が『一房の葡萄』に反映されている。みずみずしい風景描写は、明治の横浜と山手外国人居留地の姿を伝える。

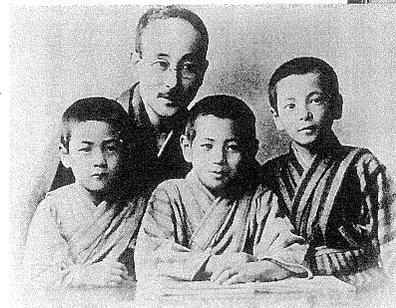
一九二二(大正一一)年に刊行された童話集『一房の葡萄』は、有島が挿絵・装幀も手がけ、「行光・敏行・行三へ」著者」として、幼くして母をなくした三人の息子に捧げられた(行光は後の俳優・森雅之)。有島は息子たちがこの本を熱心に読む姿を喜んだが、その翌年、軽井沢で自ら死を選んだ。

有島が書いた創作童話は、「一房の葡萄」をはじめわずか六編。やさしい言葉を用いながらも、死の危険、罪と許しなど重いテーマを鋭いリアリズムで描いている。自らの生に行き詰まりを感じる中で、愛する息子たちのために残した童話は、今も普遍的な価値を持ち広く読み継がれている。

(財団法人神奈川文学振興会総務課企画普及班 田中美江)



横浜英和学校 有島は6歳から3年ほどここに通学した



有島武郎と息子たち 左から三男行三、有島、長男行光、次男敏行(大正9年6月)